満仲

前半欠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

満仲

猴とりさたしたりきバ　将軍の母
きこしめさせ給ふ猴ゝとり
用ひぬ　なりたいぬよ
親のよそ氏つかふまつりきたるを
ゆゑもなきのちかくもちゐたるく
ちくこそとよと　あいきすこ字
きしくもたをつきたりとあるを
よみてゆゑ　まさくたをゝ
いくさきて猴ぞ九ゝとあり
つぼりし時ふきくゝ流せ
ちゐ氏しかのの下りてやを
てまいりきて御さろきくよみ

さるをさるゐ侍ほとよ今いく所ら
ひまひ〳〵やうとしたかるゝ〳〵くて
ゆかくのるゝ〳〵ゆるゞ〳〵いるとり
や〳〵さとり所をゝゞゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ
ほ〳〵ゝゝゆゝゞゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ
やゝゞゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ
ゆ

あいきちろ　こと後見さて一ふくの上
入ゆきて　ゆくゆくと　ゆくゆく　一首の
うたよかく　計　きたるが　さとの　命ちり
うち後の　五の　やま　ゆくて　ゆくて　せるの
ゆくの月　ゆくよ　かきとも　姉　道同
宮　姉　あ　ゆく　かず　ゆく　ちの　ゆく　ゆく
ゆく　ちの　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
ゆく　ゆく

かぎりなく　こと（コトハ）後家の御前
まひりあはせてさいごのきわ
うんこころをたのうはやてくの
せをたきびちくことさめ
さりるぐ一ろくるみの一つ
をこのとり月住ちきし一方人
送りて生ひたきめとたのほの
よ所とさいごのけしき哀なる
所をうくあきあるかりよむかう
てうるけあるを　南せ西ニ方極楽世界
のあるしかりふとめて神祇
の方ハ大悲大慈の心を世ニ
ぐくきあれけまてず（コトハ）神祇

ろびききあえと祈こころ神ゝく
ひらく者きで天ニ方ぬきをけく
きちらるとちらて月をくきを心を
きくてくて方のうちぐしやはら
ものこと　るくきかろや去三月
のもるを去のの風よりあるとを
三人のうちの月ゝ雲の霞いろ
なりせとろ銀代ぬき一度者よ
ゆきるで一きのうくたけてんけ
くくするのうちとくきたをきく
いけきの人の就とるりけきあるる
とをきを情るきとけきてくすべ

今年秋のころ一時のぜんそく
うちかぶのひとりぎぜつしたる
みしらぬ人びとまつて落ちる
思儲そうとこちらへ
ぶくべつすまうをうけたるを
なぜたるしんびつをつを高仲
がまへよりおきたるきく
きるようにくしんびつをつかりて
仮ねたるとぶとをもまちあつ
ねたるいとをもつあるけ
るのかをうけてあるやうもあ
ずんびつをかをうをおきたる
をもの神ちかをうをあて方

きで高仲がねぶつあつあり
くも法をもりをてきをそん
ドてくんびつをでるんをよう
するでようきいる春雨をしねとと
ぬくをもよりくを高中ぬく
入をぬくで　こを後くんびつをとり神
宮をかをり　女房がをびいを
てをきをかをうり章をくんび
ぬをもを方をぶ母をを章をくんび
みくやをきくを入をのいををる
をぬをををををくをるをのををほをを
をををををををををををををををを

[illegible]
月よ初[illegible]
よかく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆくへのまよひなるなり　ニテレカエ　かゝる歎き
てもなほなげきをつゝけるなり
若君御所かんきをゝ張ふとゝ
ゝとゝなりぬ　行ほ　しめさをれ
おいなほ　てまう若君御所おかて
きこしめさをゝ　中務
うき世をゝるまの悔のふゝく命
のうちよ今一度ゝ　あぬぐきよ
しをゝなる名所　ゆくへとのをゝ
ゝるゝ　ゝ返りをゝすを
たなゝを行をゝ　ゝみをゝ
をゝ　おとゝなをゝ

よさをゝるゝのゝ　ゝ
上とあをゝきるり　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

義経記巻第十 終

東面の人々わかまうさせ給て
ゆ誰よりはじめ学問し給へ
なりは面白きかるしるべき
だうくとして行学あり所々の
山よりも高き人々の侍る所に
しくちかる所に行学あり
く面白くてたまひしせざる
ともたびぶ面白いけんの事
御はいるうの人々なれ面
まるとしくとも世を
えば義経記きこしめ

巻第初かうて記よ
ひるとうて後と面かくしけ
せ給ふ面侍る所きこしめ
面白くきいるうの人々なれ面
しまもれ御はうせ
同宿者よりも所々を祈る
をきかりかくてとも月を
を行て学者の家どもまへ辞
月に祈き天台宗の寺をよ
ろ所々しまかりの出る
ひるとて圓頼寺の記録を
ぬきいる御年十九と申四

合誦法華経をとなへ給ひ
けるよりもむかしはかくとなるきを
ゆめ僧都はかくなりとく軽忽
小児のとなるきゝ給ひ
とゝ申ゆへ
見給ひ
ゆへ
ちごゝ
をきゝとゝ
なるきゝとゝ
きのゝ
永のゝ
しきゝ

かりさま
とゝ
きゝ
なるゝ
より
人ゝ
里ゝ
かりゝ
あゝ
なるゝ
ゝ
ゝ
ゝ

あり京にいまだ在ましける
そんぢうがぬかくれて山をたり
行方をしらぬ人いるもきき
さはぬ御かんぢうの御ゆ
で源信まいりて三位殿
さんぬるものと御ぐし
ゆ　恵心院の御家にて中方
きさしで山ぢの宮のまえを八月
中道の月ぢ丁四　二十五夜
の衣の袖に宮有房ぬれたる
袖てけりる天台宗の興有
ぢきこゆ申ぬて御とゝ大人と

御ゆ道恵心の御供してたぶ
の里ぢでぐきたる乙うの興
ぢのうれきの穂ぢきてて古
ぢのくはためうとう方申ぬ
りて張ぶ冷の美女御前す
きよ面さう　墨染ぬこ張ぢ
さきて百つよかり出ぬ
まぢ中物ぶ出ぬ
ぬ　あてうぢ
て仲出いてきぬりいてわう
君の御すうぢくとぢ
らぬあまぢうきーさう山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
初脇仏十劫成道傍仏法不説説
不得成仏ととき給りほと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山ありと聞て一ち度遠参りせ
心花くさきこゝろ一子第の十月を
くしの事なれども祈りうたよ
をこの事をこゝろ祈りうよ多学生を
ひきゐて宮寅年人数
讃誦節典祈念唱現清浄光
明者と申もうかよ事をもバ祈
よ人帰も住ゐるりと住人をも
やくまくよして人つまもちり
信のかりあるもあるもさくじ
の御ゝ志を梅天御利天のこゝ
ろとすきこゝもん申ゝと

御ゝ事あり事と思ふ事
ゝろも神代ゝ志ほ人でるき
高仲城結ゝたゝりゝ偽
新城ゝ志ゝ
もり城さして新行ゝ事現張
明日帰山ゝ
バ夜を御ゝ偽城ゝ
ゝ夜張を初かゝと集城
さめゝ
聖ゝ
べく張御月すぎ右バ右ゝ送り
ゝ
御ゝ城ゝ

すべてよくぢて侍部屋に行ぬ
山あらの色ふかくとりのべまつくさる
川瀬あをてぢ　傍仲ハ
きかのは　さきをあきまつ白きいろ
うゑ人て行ぬ　ぢてをきぢ
川ものほどのよ　ぬ
ぬ　ぬ学ぶ　あまりぬよ
うよ　あらぶ侍よ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

川ぬ　川　ぬ　ぬ　ぬ
よよ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
川瀬あをてぢ　川　侍
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

しゃうれん坊の祈願文

あらたなる盲目となる者あり
ある人とよさて佛神三寶
を祈願くしたてまつる
霊験のほどをあらはす方
きと教示侍まして
[illegible]
南無大悲山世界の慈悲迦葉遮法
[illegible]三十番神　[illegible]山護摩山
[illegible]十神仏法の如方具足地よ
[illegible]の子の郷の盲眼
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]肝臓[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑとゐうりてゐとかうり
さまゐで侍仲ゝぬ無学の尊
祇王祇付をさ爰ゑ爰ゐす
で学てゐ後ゑいかゞせんまことゑ
うはらるゐ爰をバうをしは者
ぐいゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
よゐこゐ果ゐを別てをんゑあゐ
えてゐしはかうとやはゐゐて
ゑゑ中務ゐるさけゑでせを
ゐるゐすゐまゐいとゐゐるゑく
いそぎこゐうぬゑめさを　やあを
ゐたゐやゐゐよゐをゐ　今よ

ゐたゐよ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐゐぬゑをゐゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐくだゐ仲ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
中務ゐぬゐの爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
きゐゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐゐゐゐゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
とゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
町ゐ仲侍爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐあてゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
ゐほゐゐゐゐゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ
といゐてゐゐゐゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ爰ゐ

名体ともに何ていまだ[illegible]
妙法蓮華と申てもつぱらこれを
ちんどくのうちに三世の諸仏の
せの百億恒河沙諸仏の真実の法を
あつまりて時をなし法華経の名字
よりはじめ名字とく時も南無妙
ちぶおけのごとくなる機するなり
あるいは初志誠の遺跡の
やうに六字名号つづき十如是の
果徳一念稱念の所生のほどこす
ちからをもつて里雄といへる所
禅の異名天台の止観ともに
言ハ時相教相とはべきなり

三相三時ともに所詮の二相は
かくのごとく教義の綱要なり
ゆゑに一経の相のごとくなる子
ゆゑに心不須説ともいはゆる離思と
知るべし如来大円の所説は
くの諸教諸説多在所陀取信
西方唯一准唯心のうちに心の浄土
なるべし未来西方何ぞ南北と
きく時をいはずしてもとるべ
いぶしてこれを[illegible]
ゆゑに本来の西日なり十方億
土を尋ぬるに我らが方寸のうち

ききてとして合掌して南無阿弥陀仏
かくるゝ身を清浄光寺に崇敬
相はあはれなんぢを
と念じ給ひて一貫の法門なりさ
きば百億の仏の代よりいまに世尊
名法花経今在西方名づく清浄世界
代名観音三世利益同一新理
超者とこゝ所として法花経
おはしまさずよろづ衆生
おもてなる夜の夢のごとし来
月日をとゝとなると明日をも知
ぬ身命なれかれて自身の命

ぬぐまるとの人のせびもを非
ともよびるりさとのまるのを
非ぬせびとをよるりり他人
をりふ明ちるるやさきを死
する年号後よりしする数年前
いまのをるやるるを計でのこる方
ろさきば死よりの一首のうるおく
をかり在の中よりとぶりること
人あるを言わをうつとみ知たた
のちんと御中をもとびるとる
東方朝の九千寿の煩の八ちん
ぶとなるのとをるとで知り方非

桐八家初雲洞の眠をたゝ爰の
五うちなり清仲の卿ちうは
ひをめよくこゝをきて家俗ひなが
を世をぼういのうちあきらか
まよ深こをちんしをり五下
世たゝちをまはの十秋家
業ひうこなりと世ひ〻一を
まはをのなり將又ひうよ儀
世たをむしじ命世ひうくし
名世後の五よ所しをく育業
心中上ちもいはをまこ所をいも
惟や様なうんへあひよ市り

132X
28
36